

平成 29 年度 事業計画

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

《はじめに》

わが国の人口構成は世界に類を見ないスピードで高齢化が進展し、平成 27 年度国勢調査人口等基本集計結果では、総人口に占める 65 歳以上の人口割合は 26.7%を占めるという超高齢化社会となっています。そこで、政府は平成 28 年 6 月重要課題として閣議決定した『ニッポン一億総活躍プラン』の働き方改革と併せ、働く意欲のある高齢者には、能力や経験を活かし、特に保育・育児・介護分野等の現役世代を支える分野などで社会参加することを強く求めています。それを受け全国のシルバー人材センターでは、平成 27 年度より国の予算の増額と併せ、「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」に取り組んでおり、今後各センターの果たす役割りは益々大きく重要なものになってきています。

しかし、全国のシルバー組織の運営や会員数状況は、65 歳までの定年延長や継続雇用制度の義務化、さらには年金制度の改正などにより高齢者の就業ニーズは多様化し、シルバーへの新規入会者は年々減少傾向にあります。特に当センターのような中山間地域では、受注額が最も多い草刈りや剪定作業の会員数は激減しており、当淡路市の高齢化率は 36.7% (対象者人口 16,045 人) とさらに深刻で、シルバー会員の平均年齢も 72 歳と高年齢化が一段と進み会員不足も相まって、今や一時的な作業の遅れや受注を断るケースなども見受けられる事態となってきております。

これら大変厳しい状況ではありますが、当センターの平成 29 年度事業は、昨年度同様、国や県・市からの強い支援を受けながら、シルバーの基本理念である「地域社会の支え手」、「自主・自立・共働・共助」を旨に、従来の草刈り中心型の就業から、国が示す現役世代を支える保育・介護分野などのサポート事業への移行を「今が過渡期！」として捉え、新たな事業展開が図れるよう「団塊の世代を中心とした会員の拡大」、「地域社会に密着した就業機会の確保・提供」、そして我々が最優先とする「安全就業の徹底と適正就業の確保」を、一人ひとりが長年培ってきた知識と豊かな経験・技術を活かし実践・貢献できるセンターづくりを目指します。

《基本目標》

会 員 数	5 0 0 人 (男 280 人、女 220 人)	
請負事業	受注件数	1,250 件 (公共 225 件、民間 1,025 件)
	受注金額	3 億 4 千万円 (公共 1 億 3 千万円、民間 2 億 1 千万円)
派遣事業	受注件数	6 件
	受注金額	1, 2 0 0 万円

1. 就業機会の確保・拡大をめざして

(1) 就業開拓

- ① サポート事業（高齢者活用・現役世代雇用事業）を積極的に展開するために、発注者の就業ニーズの情報を常に把握し、就業機会の拡大に繋がります。
- ② センター事業の自立促進のため、新たな独自事業の開拓に向けた取り組みや女性向きの職域（福祉・家事援助サービス）の拡大等々、新分野の開拓と PR に努めます。
- ③ 庭木剪定や草刈り作業等の専門的スキル講習会を開催し、会員の技術向上を図り就業機会の拡大と会員増加に繋がります。
- ④ 島内近隣センターとの連携・交流などを密にし、就業機会の流失防止と他センターにおいて受注実績のある業種など新たな就業機会の拡大に努めます。
- ⑤ 理事等の役員、会員、事務局が連携し、市内の各家庭や事業所などへの訪問活動を積極的に行ない新たな就業開拓と新規会員の確保・拡大に努めます。
- ⑥ 会員の清掃ボランティア活動など、社会参加を推進するとともに、その活動を通じてシルバー事業の啓発を図り、会員拡大と就業機会の拡大に努めます。
- ⑦ 自治体や各種団体等と連携を強め、受注機会の拡大に努めます。

(2) 会員拡大

- ① 各種媒体を活用し「知識・やる気・元気」のシルバー事業を広く PR し、会員による情報提供などにより市民への周知を進め、入会促進を図ります。
- ② 地域の高齢者を対象にした説明会や講習会などを行ない会員の拡大に努めます。
- ③ 入会率の低い女性会員の入会促進のため、福祉・家事支援サービス事業や子育て支援事業などの女性が魅力を感じる職域の開拓に取り組みます。
- ④ 年々増加傾向にある草刈り作業の需要に応えるため、団塊の世代を中心とした入会啓発を促し会員の拡大に繋がります。
- ⑤ 入会に際しては、個別面談を行ない、会員の能力、資質、ニーズに沿った就業機会の提供に努めます。

2. 組織強化をめざして

(1) 組織の強化

- ① 「自主・自立・共働・共助」の理念を尊重し、会員の意識を高め自主的な運営参画を推進し、地域社会の要請に対応できる安心と信頼の事業運営に努め、地域に根ざしたセンターを目指します。
- ② センターの自立と適正な運営、経営の安定化に向け、就業機会の拡大と併せ、地域ごとの作業効率を高めるための設備投資や環境整備を図ります。
- ③ 支部活動の運営や事務経費の見直しなどの運営費の効率化を進め、財政基盤の安定に努めます。

- ④ 公益法人として、適正に対応できる知識や情報を収集し、地域から信頼され、貢献できるセンターの構築に向けて、理事会を中心に運営体制の充実に努めます。
- ⑤ 事務所移転に備え、関係機関との協議調整を行なうとともに、職員の意識改革や組織の運営面などについて再調整を行ないます。
- ⑥ 他のシルバー人材センターとの連携や情報交換を深めるとともに、全シ協・兵シ協等が実施する各種研修会などにも積極的に参加し、就業に関する課題等を調査研究し、事業発展に努めます。
- ⑦ 一般家庭や民間事業所及び公共団体からの要望の把握に努め、また地域社会のニーズを調査・研究し、質の向上と効率的な運営を目指します。

(2) 組織の魅力アップ

- ① シルバーだより「あわじ」をはじめ淡路市の広報誌やホームページなどを積極的に活用し、シルバー事業の魅力についての広報活動の充実に努めます。
- ② 会員の多様な経歴と、その豊かな経験や技術の魅力を、全会員・役職員の口コミ等により各家庭や各地域に普及啓発を行ないます。
- ③ 公益法人としての社会的使命を果たすため、市等が行なう各種事業・行事、また清掃奉仕活動などのボランティア活動などにも積極的に参加し、地域社会への貢献を図り、シルバー事業への魅力度アップに繋がります。
- ④ 会員相互の親睦と事務局との連帯意識の高揚を図るため、会員の研修旅行事業や慶弔見舞金等の給付などを行ない、また、同好会活動への積極的な支援や地域の高齢者の「居場所」創りの提供などセンター発展に努めます。
- ⑤ 会員一人ひとりが就業に必要なマナーと技術を高め、親切・丁寧に自覚を持って就業に臨むことができるよう会員の指導に取り組みます。
- ⑥ 地域班（職群班）を基盤として、会員間交流をはじめ広報活動、会員確保、安全対策、就業開拓などに取り組みます。

3. 安全・適正な就業を目指して

(1) 安全な就業

- ① 安全はシルバー事業の基盤であり、全てに優先することを全会員に周知徹底を図り、「事故ゼロ」を目指します。
- ② 「安全・適正就業基準」を周知徹底するため、安全就業研修や講習会などを実施し、会員の安全意識の高揚に努めます。
- ③ 危険・有害な作業を内容とする仕事や高齢者にふさわしくないと判断される仕事は引き受けず、より適切な仕事の受注とその提供に努めます。
- ④ 安全就業を確保するため、年数回、「安全パトロール」の実施や、会員の就業先現場への巡回視察などを積極的に行ない、就業環境などの安全確認に努めます。
- ⑤ 会員の就業途上の交通事故の防止と交通ルールの遵守を図るため、「交通安全講習

会」を開催し、交通事故防止に努めます。

(2) 適正な就業

- ① シルバー事業の適正就業の仕組みについて事業主などに正しく理解してもらいながら、長時間就業者の是正に取り組み、ローテーション就業やワークシェアリング等を行ない、更なる就業体制の適正化を図ります。
- ② シルバー事業として適正であるか否かのチェック体制なども確立させ、安全で適正な就業に努めます。
- ③ 会員の高年齢化が進む中、健康診断の受診を促し、日々の健康管理等も含め、会員一人ひとりの安全就業に対する意識の高揚を図ります。